

第 69 回八王子市民大会中学部 決勝戦レポート

八王子サッカー協会
技術委員会

日時：平成 27 年 11 月 22 日（日） 9:30 キックオフ

会場：戸吹スポーツ公園サッカー場

優勝：F.C.Branco 八王子・R 準優勝：アローレはちきた FC

F.C.Branco 八王子・R 1 $\left. \begin{array}{c} 1-0 \\ \\ 0-0 \end{array} \right\}$ 0 アローレはちきた FC

快晴のもと、第 69 回八王子市民大会中学部決勝戦が戸吹スポーツ公園サッカー場にて行われた。第 68 回大会決勝戦と同じ顔合わせとなったが、F.C.Branco 八王子・R（以下、Branco）がアローレはちきた FC（以下、アローレ）を下し、2 年連続の優勝を飾った。

【前半】

前半は Branco がサイドに起点を作り、攻撃をしかけていく局面が多かった。ボール保持率は Branco が高く、アローレはコンパクトな陣形を形成して守備に厚みを持たせて、カウンターを狙っていく形となった。Branco は意図的に試合を組み立て、攻撃を仕掛けていこうとするのに対し、アローレは守備に人数を掛けてボールを奪い、素早く攻撃に転じようとしていた。アローレは粘り強く守備をするも、Branco の方が攻守の切り替えが速く、ボールを失っても素早くボールを奪い返しに行く姿勢が顕著であった。そのため、アローレは奪った後にボールを保持できず、リズムを掴む事がなかなか出来なかった。また、クリア後のセカンドボールに関して、アローレベンチからは『セカンドを拾っていこう』という具体的な指示が出ていたが、Branco の方がセカンドボールを拾い、2 次攻撃を仕掛けている場面が多くあった。Branco の攻撃は、両サイドにボールが入ると DF のオーバーラップから局面を打開してクロスボールを上げたり、中央をワンツーや 3 人目の動きが入って突破してシュートを打つなど、非常に多彩であった。しかしシュートの精度やクロスボールの質が低かったり、クロスボールに対するゴール前での枚数が少なかったりと、なかなか得点を奪うことが出来なかった。

そのような流れの中、前半 24 分 Branco の右コーナーキックをアローレ GK がパンチングで弾いたこぼれ球を、Branco 11 番がランウィズザボールで左サイドペナルティエリア横に運び、クロスボールを上げた。ファーサイドへのクロスボールに対して Branco 9 番がヘディングで押し込み、遂に先制点を奪った。ボールがサイドに入った時、アローレ守備陣はボールウォッチャーになり、Branco 9 番をフリーにしていた。アローレにとっては、ここまでゴール前でマークを外さず粘り強く対応していただけに、悔やまれる失点であった。

このまま、1-0の Branco リードで前半を折り返した。

【後半】

アローレは前半の課題に対してハーフタイムで修正が掛かり、セカンドボールをマイボールにしようとする意識が強くなった。前半は守備から攻撃の切り替え時にボールを失う場面が多かったが、後半はボールを奪ってからパスがつながるようになり、ボールを保持する時間が多くなった。また、前線の選手にボールを受ける動きが増えてきたことにより、縦方向へのパスが増え、ゴールへ向かうプレーも増えた。また、アローレは前線から連動したプレスを掛け、Branco に考える時間を与えない守備が出来ていた。前線に人数を掛けて高い位置でボールを奪い、守備から攻撃に転じたいアローレに対して、Branco はゴールへ直結したダイレクトプレーが多くなった。両チームともチャンスを作り出すものの、ラストパスやシュートでのミスが多く、後半は両チームとも得点を奪う事が出来ず、1-0で試合終了となった。

中学3年生にとって、この時期は受験とサッカーの両立が難しく、満身に練習量を確保できていない選手が多いのではないかと思う。やはり、後半になると、運動量が落ちてしまう選手が目立った。ユース年代に向けて課題と感じた点がいくつかあったので、以下にまとめさせていただいた。選手に皆さんには是非、今後の練習や試合で意識していただきたい。

【攻撃（ハイプレッシャーの中でのプレーの精度）】

攻撃に関して、両チームともしっかりビルドアップをして攻撃を組み立てようとする意識が高かった。局面打開のためにワンツーやオーバーラップ等のコンビネーションプレーが多く見られ、年々レベルが上がってきているように感じる。しかし、クロスボールやスルーパス、シュート等の最終的なプレーの精度が低かった。落ち着いて攻撃を組み立ててサイドの局面を開くも、最終的なクロスボールの精度が低く、得点に至らなかったり、中央からの突破もスルーパスやシュートでのミスが多く、惜しい場面が多かった。相手ゴールに近づけば近づくほど、相手のプレッシャーも厳しくなるが、その中でもプレーの精度を高めて行って欲しい。

そのためには、日頃の練習から馴れ合いにならず、お互いにハイプレッシャーをかけ合うことを意識して欲しい。オリンピック予選を戦っているU-23日本代表の南野選手がインタビューで、オーストリアのクラブに移籍後、練習から激しくスライディングをかけてくるチームメイトに驚いたと語っていた。練習でできないことは試合でもできない。ジュニアユースでの時間は残り少ないが、ユース年代で羽ばたいていくためにも、お互いに厳しくプレッシャーをかけ合う練習を心がけてほしい。

【守備（オンザボールとオフザボール）】

前半4分の局面、中盤で縦パスを受けた時にコントロールが大きくなり、後ろ向きになった Branco ボランチに対し、アローレ10番が厳しくプレスをかけ、ボールを奪った。高い位置でボールを奪えたため、惜しくもシュートまで行けなかったが、チャンスを作り出すことが出来た場面だった。しかし、その直後、同じ中盤での局面で後ろ向きにボールを受けた Branco10番に対してのアローレの守備は、ボールの移動中に寄せきれず、反転でかわされた後、ドリブル突破をされ、GKとの1vs1まで持って行かれてしまった。原因としてはボールが入る前の準備が不足していた事、アプローチも飛び込んでしまい、相手に反転され、ついていけなかった事が挙げられる。

ファーストディフェンダー（ボールに最も近い選手）は、まずボールを奪いに行く事を第一に狙うが、周りの状況を観て、ボールが奪えるのかを判断していく必要があった。オンザボール（ボールを持った相手に対して）は味方・相手等の状況を観ながら予測をしてポジションを取り、少しでもチャレンジの優先順位の高いプレーを目指すことが大切である。ただ、守備はボールを奪う事だけを考えればいいのではない。守備の目的はボール奪う事と、ゴールを守る事である。常にボールを奪う事を考えるが、それが出来ない時は、ゴールを守るために、あらゆる突破、進入を防がなければならない。奪う事だけを考えて、簡単に突破されてしまえば、失点につながってしまうため、状況判断をしてプレーの選択をする必要がある。

また、周りの味方から指示の声があったのかという部分では的確な指示があったとは思えない場面であった。例えば、カウンターを受けているなら、一度、攻撃を遅らせるためにも、『飛び込むな』とか『遅らせろ』という指示の声が必要であろう。後ろにカバーが来ているなら、『奪いに行け』という指示もできるだろう。周りからの指示の声があれば、もっと思い切ったプレーが出来るのではないかと感じる。

守備はオンザボール（ボールを持った相手に対して）とオフザボール（ボールを持っていない相手に対して）の局面が連続的に変化していく。オンの選手以外は全員がオフの選手となる。オフの選手は周りの状況を観て予測し、適切なポジションを取り続けなくてはならない。また、ボールが入る前に『〇〇番にボールが入ったら、お前が行けよ』、『わかった』などの味方同士のコミュニケーションを取っておく事や、周りへの指示を出す事も今後、ユース年代に向けて、必要となってくる。わかっているが味方に対して何も指示できないのであれば、わかっていないことと同じになってしまう。最初から完璧な指示の声を出せる人はいない。間違ふことを恐れず、ゲーム形式の練習の中で積極的に指示の声を出していくことを心がけて欲しい。

両チームともチームとしての完成度は高く、レベルの高い試合となったが個人技術に関しては、より質を高めていく必要性を感じた。今後（ユース年代以降）は選手それぞれが違うチームに進んで、様々な戦術やサッカーの考え方の中でプレーをしていく事になるで

あろう。時には今までとは全く違う戦術等に出会う事もある。その時に様々なサッカーに順応するために必須となるのが、しっかりとした個人技術である。ジュニアユースとしての活動時間は残り僅かとなってきたが、個人技術の見直しをして、より向上させていってほしい。そして、今後、ユース年代以降で八王子から東京、全国、そして世界で活躍できる選手が多く出てくれる事に期待する。